

M7級地震16〜18%の確率

今後30年 日本海中南部の活断層

日本海中南部(近畿・北陸沖)の海域活断層

政府・地震調査委員会の長期評価

全体
16~18%
今後30年以内にM7.0以上の地震発生確率

西部区域
4~6%

東部区域
12~14%



海域活断層名称	地震の規模	30年確率 (%)
1 沖ノ碓北方断層	M7.2	0.06-0.4
2 経ヶ岬沖断層	M7.4	0.2-0.6
3 小浜沖断層	M7.4	0.1-1
4 浦島礁北方北断層	M7.5	0.06-0.4
5 石狭海丘列北縁断層	M7.0	0.4-0.9
6 越前岬西方沖北断層	M7.5	0.2-0.6
7 浦島礁北東断層	M7.1	0.07-0.5
8 ゲンタツ嶽-大グリ南東縁断層帯	M7.7	
9 ゲンタツ嶽-大グリ南東縁断層帯	M7.0	0.4-0.9
10 ゲンタツ嶽-大グリ南東縁断層帯	M7.4	0.2-0.5
9 加佐ノ岬沖断層	M7.2	0.3-0.7
10 羽咋沖東断層	M7.3	0.1-0.3
11 羽咋沖西断層	M7.0	0.3-0.7
12 内灘沖断層	M7.3	0.3-0.8
13 海士岬沖東断層	M7.0	1-2
14 門前断層帯	M7.5	
14 門前沖区間	M7.1	1-2
14 海士岬沖区間	M6.9	0.1-0.3
15 沖ノ瀬東方断層	M7.4	0.1-0.2
16 能登半島北岸断層帯	M7.8	ほぼ0
17 輪島はるか沖断層	M7.1	0.2-0.3
18 能登半島北方沖断層	M7.3	0.2
19 船倉島近海断層帯	M7.8	
20 七尾湾東方断層帯	M7.6	
21 飯田海脚南縁断層	M7.3	0.1
22 富山トラフ西縁断層	M7.8	0.9-1
23 富山トラフ横断断層	M7.0	0.9-1

(— は公表値なし) (Mはマグニチュード)

政府の地震調査委員会は27日、日本海中南部(近畿・北陸沖)に分布する23カ所の海域活断層について今後30年以内の地震発生確率を公表した。マグニチュード(M)7の地震を引き起こす恐れのある長さ20キロ以上の活断層や断層帯が評価対象。いずれかを震源にM7・0以上の地震が発生する確率は16〜18%と評価した。

調査委では昨年の能登半島地震を受け、同年8月に日本海中南部にある海域活断層の位置や長さ、想定されるM値を前倒しで公表していた。

東西で2区域に分けた場合の同確率は、西部(近畿北方沖、北陸西部沖)の9カ所で4〜6%、東部(金沢平野西方沖、能登半島周辺、富山県沖)の14カ所で12〜14%だった。

平田直委員長(東京大名誉教授)は「今後30年で10%程度というのは、私たちが生きているうちに起きても不思議ではない高い数字だ」との見解を示した。

能登半島北岸断層帯(想定M7・8〜8・1程度)は昨年の地震で震源となったため、個別には発生確率をほぼ0%と評価。一方、同半島西側の海士岬沖東断層(同M7・0程度)と門前断層帯の一部区間(同M7・1程度)はいずれも1〜2%と23カ所の中で最も高かった。